



金山杉俳句会報 第三九一回

胃カメラを飲み終へ春の山笑ふ
古井戸の手押しポンプや柳の芽
春風や軽やかかなりし洗濯機
幼子の言ふがままなるさくらかな
悲喜こもごも涙の乾く春の詩
囀に雑木の山が目覚めけり

セイ子
サタエ
敏子
恵美子
よし子
順子

幹事のアッコちゃん
柚木麻子／双葉社



働く女子の味方、アッコちゃんシリーズ第3弾。妙に冷めている男性新入社員に忘年会の極意を。敵意を持ってやってきた取材記者には前向きに仕事に取り組む姿を。時間の使い方が下手な部下には習い事に強制参加を。アッコちゃん節が次々と炸裂します。

教場2
長岡弘樹 (山形県出身)／小学館



人間の黒い部分を見事に表現した教場シリーズ第2弾。警察学校小説という新機軸を打ち出した作品。スリリングにしてミステリアスな読者への挑戦状。怪物じみた切れ者刑事風間教官はなぜ教官に転じたのか？6つの話が前作以上に鋭く深く突き刺さる。

かねやま紅風会

荒屋 阿部 勝子
おみくじは大吉と出る花の寺
花のみち亡夫と巡りて満願寺
荒屋 関 喜美子
倅せの隊伍を組めり鳥帰る
春風を身に浴びながら成相寺
菅 越 庄司けみ子
得意げな子等の歓声土筆摘む
校庭の遊具も子等も春休み
七日町 青柳キエ子
咲き初めしつらつら椿の仁王門
卒業の孫の背びらの頼もしき

七日町 柴田 栖静
鈴の音やゆるる法衣に風光る
満願を迎ふお慈悲や春の空
羽場 坂本徳太郎
臘梅の囲ひの中に香り発つ
老人の集ふ輪投げや浅き春
上 台 阿部 一
春暖気北の大地を押し上げる
爺婆と燕のまもる過疎の里
七日町 村松 奈風
はらからの絆は固し彼岸鉦
初音よぶ風のさやぎの優しかり

新刊図書 5月

- 疲れやすい人の食事は何が足りないのか／森由香子
- 教場2／長岡弘樹
- 幹事のアッコちゃん／柚木麻子
- 死んでいない者／滝口悠生

森の子ども図書 交流サロンポスト内 12:30~17:00



『おふくさん』
(服部美法／文・絵 大日本図書)

山の奥深くにおふくさんたちは住んでいます。おふくさんたちはいつもにこにこ。みんなで仲良く暮らしていました。ところがある日、鬼がやってきてこう言います。「今からおまえたちを怖がらせてやるぞ。覚悟しろ！」と。でもおふくさんたちは平気のへっちゃら。「鬼さん、いっしょに笑いましょうよ。」と言ってみます。笑うもんか！と言っている鬼さんを笑わせるためにおふくさんたちはあの手この手で笑わせようとしますが失敗します。さあ、どうやって笑わせようかな。笑う門には福来るですね。